



元気っ子

No.235 ながさわ保育園

平成 29 年 3 月号

園長 市川 温 予

今年は寒冬で 2 月も雪が降ったり積もったりしましたが、子ども達は元気いっぱい自然の環境をまるごと受け止め楽しんでいました。“子どもは風の子”まさにその通りです。もう少ししたら西の山も寒々とした感じがなくなり、空気もやわらかく感じ春めいていくのでしょうか。

さて、平成 28 年度の保育も残り一ヶ月となりました。子ども達を見ていると、毎日の生活の積み重ねやいろいろな年齢の友達との関わり、先生達との関わり、そして自然との関わりを通して一人ひとりがいろいろな事を経験し、感じたことを自分の中に取り込んでいます。子ども時代を子どもらしく生活し、遊び、仲間とのトラブルを何度も見たり、経験してこそ、この乳幼児期に必要な修復能力を身につけることができるのです。複雑に絡まった人間関係を乗り越えてこそ、お互いにうまくいく術を身につけ、それがその子の生きていく土台になるのだと私は思います。

今、保育園では卒園や進級に向けての準備を少しずつしています。ライオン組は、就学に向けて異年齢クラスから抜け、ライオン組だけで生活をしています。小学校入学前に生活を基盤とした保育を丁寧に繰り返しています。3.4 歳児は年齢別で生活していますが、毎日 2 歳児(うさぎ組)が少しずつ 3.4 歳児の部屋に入室し、集まりに入ったり、コーナーで一緒に遊んだり、給食を一緒に食べたりしています。異年齢クラスでは一番下だった 3 歳児もうさぎ組が入室することで、お兄ちゃん、お姉ちゃんぶりを発揮しています。それは今まで年上の子に優しくしてもらったり、助けてもらったりしたことを体で覚えているので、うさぎ組さんに優しくいろいろと気にかけて声をかけることができるのだと思います。

また、乳児クラスも「安心・安全・安定」のある保育環境の中で一人ひとりを大切に保育をしています。毎日の生活の中で同じことを同じ手順で繰り返すからこそ、身についていくのだと、ひよこ組の子ども達をみていると強く感じます。どんなに小さな子でも同じことを同じ手順で丁寧に言葉がけをし、繰り返し積み重ねていけば先の見通しをもち、心が安定し、自発的にいろいろなことができるようになっていくのだと思います。

4 月になったら子ども達はひとつずつ年齢が上がります。特にりす組は 2 階から 1 階のうさぎ組の部屋に、うさぎ組は異年齢クラスへと住環境が大きく変わります。子ども達にとっては、部屋が変わり、友達が変わり、担任が変わることで、不安になったり戸惑ったりする子もいますので、3 月は緩やかな進級のための移行期間として少しずつ新しい環境に馴染んでいけるようにしていきたいと思っています。後、一ヶ月“楽しく、元気に、ゆったりと”子ども達にも先生達にも過ごしてほしいと思っています。